

# Bilateral Simultaneous Cavernous Sinus Sampling が 確定診断に有用であった Cushing 病の1例

三木 浩一<sup>1)</sup>, 大川 将和<sup>1)</sup>, 安部 洋<sup>1)</sup>,  
岩朝 光利<sup>1)</sup>, 上羽 哲也<sup>1)</sup>, 東 登志夫<sup>1)</sup>,  
井上 亨<sup>1)</sup>, 高野 浩一<sup>2)</sup>, 青木光希子<sup>3)</sup>,  
林 博之<sup>3)</sup>, 鍋島 一樹<sup>3)</sup>, 堤 陽子<sup>4)</sup>,  
永迫 久裕<sup>4)</sup>, 福田 高士<sup>4)</sup>, 目連 順子<sup>4)</sup>,  
明比 祐子<sup>4)</sup>, 野見山 崇<sup>4)</sup>, 柳瀬 敏彦<sup>4)</sup>

福岡大学医学部 <sup>1)</sup> 脳神経外科, <sup>2)</sup> 放射線科, <sup>3)</sup> 病理学教室,  
<sup>4)</sup> 内分泌糖尿病内科

要旨：Cushing 病の大部分は下垂体のマイクロアデノーマによるものであり，画像による局在診断は困難なことがある．近年，Cushing 病に対する海綿静脈洞サンプリングによる局在診断が可能となり，良好な手術成績が報告されている．59 歳男性，2 型糖尿病，高血圧で近医にて加療されており，赤ら顔の増悪が見られた．内分泌学的検査及び頭部 MRI にて Cushing 病が示唆された．選択的静脈洞サンプリングを施行し，右海綿静脈洞部からのサンプリングデータにおいて ACTH の高値を認め Cushing 病の診断となった．内視鏡下経鼻的蝶形骨洞的下垂体腺腫摘出術を施行し，劇的な病態と症状の改善を認めた．海綿静脈洞からのサンプリングは Cushing 病の診断において有用な検査である．

キーワード：Cushing 病，海綿静脈洞，下錐体静脈洞，サンプリング